

ているところが非常に多く、こんな身近で多くのアスベスト建材が使用されていることを改めて実感しました。

このワークショップでアスベストが非常に身近で多く存在していること、これらの建物が解体される時には飛散しないようにしなければいけないこと、健康被害で苦しんでいる人が非常に多いことを改めて確認、実感しました。

## 原子力空母の母港化撤回を

代表質問では、米空母母港化にともなう基地被害についても質問しました。

横須賀では感じませんが、厚木基地周辺では空母艦載機のものすごい爆音で生活に支障をきたしています。

今年8月から山口県の岩国基地への空母艦載機移駐が進められていますが、9月には厚木基地での訓練があり、昼夜の別なく爆音が響きました。

厚木基地周辺自治体に寄せられた苦情は今年4月からだけでも4038件となっています。移駐しても厚木基地周辺の爆音が解消されるとは言えませんし、新たに岩国周辺の住民に爆音被害が及ぶこととなります。

また、事件・事故も多く、部品遺失事件も3件、11月には米軍のC2輸送機が沖ノ鳥島の沖合で海上に墜落したり、2006年には空母乗組員による米が浜での女性殺害事件などが発生しています。

このような被害の根本原因である原子力空母の母港化撤回を日米両政府に求めるよう質しました。

## 統合予定の高校を視察

11月24日に県立高校再編計画によって統合する予定の県立三浦臨海高校と県立平塚農高初声分校を視察しました。

三浦臨海高校は、2004年に三崎高校と初声高校が統合されてできた学校で、今回再び統合することになります。

新たな学校名は「神奈川県立三浦初声高等学校」となり、



三浦臨海高校のカフェテリア

学科は、新たに普通科と都市農業科を設け、両学科の特色をいかし、地域に根差した学校をつくるということです。

私たちは、現在の高校再編について見直しを求めています。今回視察することによって課題もいくつか明らかになりました。

## ダブルキャンパスと教員配置

一つは、農業高校は実習などで畑やほ場が必要なため、それらの場所の確保が重要です。そのため統合した後も初声分校の校地をそのまま使う



初声分校の農業実習の温室。屋根のガラスの交換が必要とのことでした。

ダブルキャンパスと言われていましたが、別々の場所で授業が行われるため歩いて15分の距離を行き来することになります。

2つには、教員の配置です。特に養護教諭の配置は課題となっていて、現在でも養護教諭が非常勤のために午後の授業中でも勤務時間が終了してしまうことがあるなどがあげられました。

解決に向け教育委員会と相談したいと思います。

## 2017年を振り返って

今年も残すところわずかとなりました。1年があっという間に過ぎていきます。

今年は、総選挙が行われ、日本共産党は議席を減らすという残念な結果となりましたが、一方で野党共闘が前進した面もありました。

県議会では、県民の要望に基づいて県営住宅の修繕費の増額や脱原発に向けた再生可能エネルギーの推進、石炭火力発電所の計画中止を求めてきました。今後も県議会に送り出



していただいたみなさんの期待に応えられるように頑張ります。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。